# **IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS**

# 岩手医科大学報

No. 530



いわてチルドレンズヘルスケアとこれからの小児医療 特集

吉川赳復興大臣政務官と岩手県こころのケア

センターとの意見交換が行われました

トピックスプラス一病棟ラウンジに「山並み眺望パネル」が設置されました

すこやかスポット看護学講座No.2

「実習施設との協力体制の取り組み」

表紙写真: 岩手医科大学附属病院 子ども憲章 (関連記事p.2-5)





# はじめに

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは世界中で社会を分断し、食糧不足や人種 差別、経済格差などにつながっています。わが国では外出の自粛や在宅勤務が要請されるな かで、多くの家庭が自宅でのとじこもり育児を余儀なくされ、とくに一人親世帯や経済的困 窮家庭、医療的ケア児を育てる家族が深刻な影響を受けています。コロナ以前から、子育て は母親の役割又は家族の責任、という考えが支配的な社会は、24時間365日待ったなしの 育児をする親の孤立感を深め、子どもの虐待や母親の産後うつなど、多くの重大な事態を生 んでいます。やがて大人になり社会を担っていく子どもたちの育ちを、さまざまな立場の人 が地域で支援することが大切です。



小児科学講座 教授 小山 耕太郎

# ■ いわてチルドレンズヘルスケア

新生児・小児医療の進歩は、日本を乳児死亡率が世界でもっとも低い国にしました。岩手県においても NICU や 小児病棟の先端医療により救われる子どもが増えました。一方で、教育や就労、家族の生活に対する支援の不足が 指摘されてきました。私たちは2019年10月、妊娠、出産、育児を切れ目なく支援するため、慢性疾患や発達障害 の子ども、医療的ケア児を育てている家族など、当事者を中心にして、医療、保健、福祉、教育、行政の関係者が 委員となり、連携・調整を図る「いわてチルドレンズヘルスケア連絡会議」を設立しました。連絡会議は会長(小 児科学講座小山教授)・副会長(岩手県小児科医会三浦義孝会長)・委員77名の合計79名で構成されています。本 学の教職員20名が委員に任命され、事務局は小児科学講座が担当する等、学内関係者が多く携わっています。連 絡会議には患者や家族、専門家で構成される運営委員会が置かれ、課題を整理し対応策を検討されています。

# ◆手交式



2020年6月4日(木)、いわてチルドレンズヘルスケア連絡会議と 岩手県の手交式が行われ、「子育て支援に関する提言書」が小山会長 から野原勝保健福祉部長に提出されました。式は、岩手県保健福祉 部長室で行われ、報道機関7社の取材がありました。

#### 【出席者】

• 連絡会議

小山耕太郎教授(会長)、患者家族メンバー4名 ※患者家族メンバー4名は、Web会議システムZoomにより参加 岩手県

野原勝保健福祉部長、工藤啓一郎医療政策室長、菊池優幸障がい 保健福祉課総括課長

# ■ 医療的ケア児の課題

医療的ケア児とは 2016 年施行の改正児童福祉法により「人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を 営むために医療を要する状態にある障害児」と定められており、地方公共団体は支援体制を整備することが求めら れています。具体的には、生命と健康の保持のために医療と医療機器が必要な子どもで、人工呼吸器の管理、気管 内挿管・気管切開の管理、喀痰吸引、酸素療法、胃瘻・腸瘻・胃管からの経管栄養、中心静脈栄養、導尿などを受 けている患児のことです。2018年10月時点で岩手県内には195人の医療的ケア児がおり、半数以上が盛岡圏域に 居住しています。

家族は慢性的な睡眠不足にさらされ、ケア児を連れての外出は困難を極めています。きょうだいの学校行事や予 防接種などに充てる時間も限られており、きょうだいたちは親に甘えたくても甘えられません。介護者の急病など 緊急時にケア児の預け先がないことは多くの家族にとって共通の悩みです。岩手県においては、保育・教育分野で の医療的ケア児の受入れが課題です。園・学校への看護師の配置や通園・通学の支援、医療的ケアに精通した指導 医の配置など、改善策について協議しています。また、とくに盛岡圏域におけるレスパイト入院\*、短期入所機能 の不足はもうひとつの課題です。岩手県立療育センターを中心とした受入れ体制の整備が求められています。さら に、今般の新型コロナウイルスの影響下においては、介護者がコロナに感染し介護を継続できない場合、濃厚接触 者となった医療的ケア児の受入れ先を確保する必要もあります。

※レスパイト入院とは、介護者の日々の疲れ、冠婚葬祭、旅行などの事情により、一時的に在宅介護が困難となる 場合に期間を設けた入院の受け入れを行い、介護者の負担軽減(息抜き)を目指す仕組みのこと。

# 在宅人工呼吸器装着児の新型コロナウイルス感染症に関しての対応

	養育者 在宅人工 呼吸器装着児	陰性~濃厚接触	陽性 入院が不要	陽性 入院が必要
	濃厚接触	児は養育者とともに健康観察を 基本とする	児は養育者とともに健康観察 もしくはホテル隔離とする	養育者は医療機関へ入院 児は養育状況により健康観察か、 レスパイト施設や医療機関への 入院かを検討
	陽性	児は医療機関へ入院 養育者の同室付き添いを考慮	児は医療機関へ入院 養育者の同室付き添いを考慮	児と養育者は医療機関へ入院 同室か別室かは、状況により判断

〈公益社団法人日本小児科学会ホームページをもとに作成〉

# ◆本学の取り組み

そこで本学では、医療的ケア児を含め た障害児者を支える環境の整備・充実や 障害児者医療を担う人材育成・確保を目 的とし、2020年4月1日に岩手県の寄附 講座として「障がい児者医療学講座」を 開設しました。本講座は小児科医3名に より組織されています。



左から:浅見特命助教、亀井特命教授、 高清水特命助教

#### 活動内容イメージ

# 障がい児者医療学講座 の活動

#### 教育·研修

- 本学学生への教育
- ・医療従事者への研修等

# 診療支援

- 療育センターでの診療
- ・多職種ネットワーク構 築に向けた調整役等

#### 支援ニーズの調査

- 障がい児者やご家族が 専門医療機関に期待す るニーズの調査
- · 医療、保健福祉、教育 機関が専門医療機関に 期待するニーズの調査

### 重症心身障害児・超 (準超) 重症児・高度医療的ケア児

# 手医科大学附属病 (小児科・NICU)

#### 急性期病院の役割

- 急性期の小児患者の受力
- 疾患を抱えた新生児 (NICU) の受入
- ・高度専門医療を必要とする児の受入等

#### 親子(教育)入院

# 岩手県立療育センタ-(障がい児入所施設)

#### 存育施設の役割

- ・医療的ケアを必要とする児等の重症心身障がい児の受入
- ・ 肢体不自由児の受力
- 障がい児へのリハビリテーションの提供
- 発達障がいの診断
- · 在宇移行支援

### 家 庭

# 在宅移行後の支援

- 訪問看護・訪問リハビリテーション
- ・短期入所 (レスパイト入院) 福祉・行政サービス
- ・児童発達支援センター・事業所
- ・保育所・幼稚園、学校における医療的ケア

# 成人期医療への移行

- ・長期入所・グループホーム

# 慢性疾患をもつ子どもの成人期への移行の課題

わが国の医療の発展は乳児期以降の 子どもの生命予後も改善しました。先 天性心疾患や小児がんなど、小児期に 小児期発症疾患の病態 慢性疾患に罹患した患者の死亡率は この30年間で約1/3に減少し、多く の子どもが救命されるようになりまし た。それは同時に、原疾患の治療や合 併症への対応が長期化し、それらを抱 えて、思春期、成人期を迎える患者の 増加を意味します。原疾患や合併症の 病態は加齢とともに変化し、さらに成 人期に発症する生活習慣病や心血管疾 患、悪性腫瘍、女性では妊娠・出産を 含む「成人期の病熊生理」が形成され ていきます。この移行期は、小児から 成人に向かって「自立」の準備をする 大切な時期であり、小児慢性疾患患者 にとっては自身の疾病を理解し、自己 決定する「自律」のための準備期間で もあります。

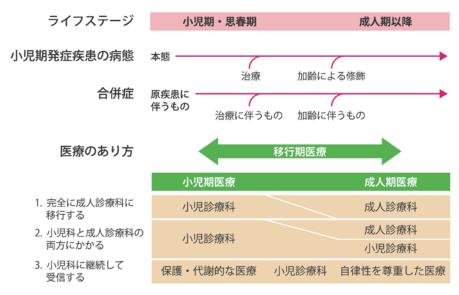


図1:移行期医療の概念図

〈難病対策委員会と小児慢性特定疾患児への支援の在り方にする専門委員会の 合同委員会資料をもとに作成〉

しかし、現在の小児医療では、患者本人でなく、患者の保護者の意向を中心にして医療が提供される傾向にあり、小児科も成人診療科も必ずしも適切な医療を提供できていないのが現状です。慢性疾患をもつ子どもの成人期への移行には、小児科のみならず成人診療科の医師や看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、ソーシャルワーカーなど、多職種による医療体制の整備と患者の自立・自律を支える福祉や教育などの環境整備の両方が必要です(図1参照)。 国は2017年10月に都道府県における小児慢性特定疾病の患者に対する移行期医療支援対策の構築に係るガイドを公表し、この二つの支援を行う「移行期医療支援センター」の設置を都道府県に対し求めています(図2参照)。



# 役割

- ・成人期の小児慢性疾患の患者に対応可能な医療機関の情報を把握・公表
- ・小児期の医療機関と成人期の診療科・医療機関の連絡調整・ 連携支援
- ・患者自律(自立)支援を円滑に進めるための必要な支援

#### 具体的な取組内容

- 連絡体制の整備
- ・相談受付体制の整備
- ・在宅介護や緊急時の受入れ先の確保の支援
- 各医療機関の自律(自立)支援の取組の支援
- ・小児慢性特定疾病児童等自立支援員との連携・移行期医療支援の進捗状況の評価、改善策の検討
  - 成人期の医療機関

紹介・逆紹介・コンサルト・合同カンファレンスの開催等

• 移行期医療支援につなげる

■ 小児期の医療機関

・必要に応じて、成人後も患者を診療

# 具体的な取組内容

- •成人診療科・医療機関との協力による、患者にとって最も良い移行期医療の提供
- 移行期医療支援の必要な患者に自律(自立)を促す取組

相談、問い合わせ、成人期の医療機関の紹介等

•移行期医療支援センター(仮称)の実施する進捗状況の把握に係る調査等に協力

※上記の支援体制を構築するにあたり、慢性疾病児童等地域支援協議会等を活用することも差し支えない。

#### 役割

・必要に応じて、小児慢性疾患の患者に対する成人期診療の提供

# 具体的な取組内容

- 小児診療科・医療機関との協力による、患者にとって最も良い移行期医療の提供
- 総合的に患者を診療する機能を有する診療部門に相談できる体制の整備
- ・必要に応じて、産婦人科、精神科、心療内科に相談できる体制の整備
- •移行期医療支援の必要な患者に自律(自立)を促す取組
- 移行期医療支援センター(仮称)の実施する進捗状況の把握に係る調査等に協力

#### 図2:都道府県における移行期医療支援体制のイメージ

〈難病対策委員会と小児慢性特定疾患児への支援の在り方にする専門委員会の合同委員会資料をもとに作成〉

# ◆本学の取り組み

当院は、2019年に北海道大学、東北大学とともに日本成人先天性心疾患学会により認定された総合修練施設として、成人先天性心疾患(ACHD)外来を開設しています。小児科通院中の患者さんが成人に達する場合、患者さんの病状やご意向に応じて、小児科から循環器内科へと移行しています。当院ではこれまでも医科・歯科の全診療科で先天性心疾患患者を診させていただいておりますが、とくに消化器内科肝臓分野と共同でFontan 術後肝合併症の診療を行っています。また心臓血管外科や産婦人科、麻酔科、看護部、薬剤部、リハビリテーション部、栄養部、臨床検査部、医療相談室など、多職種を加えた Team ACHD として定期的な症例検討会を開催し、患者さんのいろいろな課題へ対応しています。

2015年に開設された小児造血幹細胞移植後フォローアップ外来では、年少患者さんの保護者からも進学や就職、妊孕性等の相談が寄せられ、移行支援の多様性とニーズの高さが伺えます。2020年10月に始動した循環器小児看護外来では、育児相談や、成長していく患者さんご本人が年齢に応じた自分の力で病気理解と健康行動がとれるようになることを目的とした支援に取り組んでいます。

また、当院で小児医療を受けるにあたり守られるべき子どもの権利を総括して、いわてチルドレンズへルスケア 連絡会議の協力により「岩手医科大学附属病院子ども憲章」を制定しました。これには、子どもの権利の保障と自立・ 自律への支援が謳われています。

# ■ おわりに

災害などの危機的状況は、普段からそこにありながら充分には意識されていない私たちの課題を浮かび上がらせます。今回の新型コロナウイルス感染症によるパンデミックも、私たちがどのような社会を目指すのかをあらためて問いかけていると思います。スペインの哲学者オルテガによれば、「共存」と「社会」は同じ価値を持つ言葉です。さまざまな職種や組織の支えの中で、病気や障害が特別なものでなく、安心して子育てできる環境が必要です。ひとつのキャンパスに医・歯・薬・看護の4学部を擁し、基礎と臨床の専門家が集まる本学は、北東北における小児医療を牽引するだけでなく、専門領域の垣根を越え、成人期への移行を含む子育て支援の中心となることが期待されます。

# お知らせ

# 公式YouTubeチャンネル「学校法人岩手医科大学」で動画が公開されています

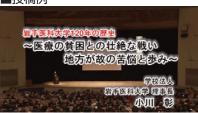
当チャンネルでは、小川理事長による本学創立 120 周年記念講演動画や本学に勤務する臨床研修医の紹介動画、 緩和ケア病棟紹介動画などが投稿されています。教職員の皆様もぜひご覧ください。

- ■チャンネル名 「学校法人岩手医科大学」
- URL https://www.youtube.com/channel/UCWMILNIL\_OnLX3ftq2-YR9A
- ■投稿方法 法人事務部総務課の学内限定ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。





# ■投稿例



創立 120 周年記念講演



臨床研修プログラム紹介



臨床研修医紹介



緩和ケア病棟紹介

# TODICS

# 岩手県看護協会から防護服が寄贈されました

9月30日(水)、附属病院5階病院長室において、公益社団法人岩手県看護協会の及川吏智子会長から新型コロナウイルス感染症対策で必要となる防護服が寄贈されました。

日本看護協会では、関係団体から寄せられた寄付金を活用し、全国の都道府県の看護協会を通じて、医療施設等へ医療従事者向け防護服を配布する取り組みが行われ、本学に100枚の防護服の寄贈がありました。

小笠原病院長は「なかなか手に入ら<mark>ない大変貴重な</mark>ものを提供いただき、大変助かります<mark>」と感謝のこと</mark>ばを述べられました。



左から:佐藤看護部長、小笠原病院長、及川会長

# 医療専門学校歯科衛生学科のネームプレート交付式が行われました

10月5日(月)、内丸キャンパス歯学部4階講堂において、令和2年度歯科衛生学科ネームプレート交付式が行われました。ネームプレート交付式は、これから同学科の1年生が臨床実習を行うにあたり、医療人としての心構えや責任感を自覚し、決意を新たにするために行われます。

式では、実習着に身を包んだ学生33名の呼名に続き、 三浦校長から一人ひとりに実習用のネームプレートが 手渡されました。

厳かな雰囲気の中、学生を代表して新山幸乃さんが「歯科衛生士としての役割と責任を実習の中で学んでまいります」と決意を述べ、歯科衛生士への第一歩を踏み出すことを誓いました。



ネームプレート交付式に臨む学生ら

# 外科学講座・岩谷准教授と 医療開発研究部門・西塚特任教授による 記者会見が行われました

10月12日(月)、大堀記念講堂で外科学講座の岩谷准教授と医歯薬総合研究所医療開発研究部門の西塚特任教授が「患者個人に合わせた超高感度血液検査で食道がん再発を早期に検出する方法を開発」について記者会見を行いました。

本研究は、血液中のがん細胞由来のDNAを検出することで食道がんの再発を高精度に判定可能としたものです。従来の検査方法よりも約6か月早く再発の有無を確認できることを見出しました。この成果は米国消化器病学会雑誌「Gastroenterology」の電子版に公開されました。

岩谷准教授は「食道がんは再発も多く治りにくいがんの一つであるが、早期に再発を発見することにより早期に治療を行い、助かる命を増やしたい」と語られました。

当日は、複数の報道機関の記者が訪れ、岩谷准教授らの説明を傾聴していました。会見終了後、記者らによる囲み取材が行われ、一つひとつ質疑に丁寧に答えていました。



記者会見の様子



実験中の岩谷准教授

# 吉川赳復興大臣政務官と岩手県こころの ケアセンターとの意見交換が行われました

10月12日(月)、岩手復興局において、吉川復興大 臣政務官と平岩裕規岩手復興局長ほか復興庁職員と酒 井センター長、大塚副センター長との被災地のこころ のケアについての意見交換が行われました。

吉川復興大臣政務官は冒頭で、「震災から来年で10 年を迎えるところで、これからは、被災者のこころの ケアが重要となる。今後、被災地含め日本全体が高齢 化社会となる中、一層のこころのケア<mark>が必要になって</mark> くると思っているので、そうした観点<mark>からも両先生の</mark> ご意見を賜りたい」と挨拶されました。

意見交換会では、酒井センター長と大塚副センター 長により、事業の説明や被災地の困難を抱えている現 状、コロナ禍での被災地のメンタルヘルスへの影響、 長期的な事業の必要性等が報告されました。岩手県の 森昌弘障がい保健福祉課心の支援・療育担当課長や担 当職員および下川知佳生活再建課相談支援担当課長も 同席されました。吉川復興大臣政務官は「個々のフェー ズ、今般の社会情勢の変化の中で、多角的に御対応い ただいていることがよくわかった。専門的な知見が求 められる領域でもあるので、両先生には今後とも御対 応いただきたい! と語られました。



左から:吉川復興大臣政務官、平岩岩手復興局長



意見交換会で報告する酒井センター長

# 災害現場で利用される高機能テント「ウエス タンシェルター」の設営訓練が行われました

10月13日(火)、災害時地域医療支援教育センター において、実災害時や研修時に屋外での救護所や災害 対策本部を設営する上で、機能性の高いテントが必要 であることから、海外の災害現場で幅広く利用されて いる高機能テント「ウエスタンシェルター」の設営訓練 が行われました。

このテントは、壁と屋根が二重になっており、内側の 屋根と壁には断熱材が入っています。夏は暑い直射日 光の影響を軽減でき、冬は結露が発生しにくい構造で、 季節を問わず快適な環境が得られやすくなっています。 また、屋根、壁、床とパーツが分かれている為、メン テナンスもしやすく、清潔に保ちやす<mark>いのも快適性に繋</mark> がっています。

購入に際し、協栄テックス株式会社様と株式会社で ずかたサービス様から平成23年より頂戴している寄付 金を活用させていただきました。両社におかれまして は、例年多大なるご支援を賜っており、この場をお借り して御礼申し上げます。



設営時の様子





内観

# 新型コロナウイルス感染症に対応可能な人材 育成に向けてCBRNE研修会が行われました

10月14日(水)、矢巾キャンパス災害時地域医療支援教育センター において、CBRNE 研修会が行われました。

CBRNEとは、Chemical: 化学、Biological: 生物、Radiological: 放射性物質、Nuclear: 核、Explosive: 爆発物を指し、今回の研修会ではB (Biological: 生物)に重点を置いた内容とし、新型コロナウイルス感染症に対応可能な人材の育成を目的としています。

県内病院職員、行政職員、保健所職員、救助関係者(消防、自衛隊、警察、海保)等を対象に行われ、51名が受講(その内26名はWEB受講)しました。

当日は、本学救急・災害・総合医学講座 災害医学分野の教員をはじめ、神奈川県健康医療局の医療危機対策統括官によるWEB講義、国立病院機構本部DMAT事務局から講師を招いて事例報告がありました。受講者は、Withコロナ時代の院内感染対策と患者受け入れの考え方や感染防護具の着脱手順等について理解を深めました。



感染防護具の着脱方法を習う受講者



感染防護具を着用して点滴の準備を行う様子

# 第53回動物慰霊祭が行われました

10月26日(月)、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、第53回動物慰霊祭が執り行われ、祖父江学長をはじめとする本学教職員が参列しました。

式では、昨年度教育及び研究により供された動物に対する黙祷の後、祖父江学長から「尊い生命を捧げた実験動物に深く感謝し、このいのちを無駄にしないよう努力する」と慰霊のことばがあり、続いて学生を代表し、薬学部4年石崎仁鵬さんから「動物実験を行うにあたりいのちを差し出してくれた動物たちの供養のためにも、実験を通して学んだ知識・技能をもって、社会に貢献する医師・歯科医師・薬剤師になりたい」と慰霊のことばが捧げられました。続いて、三部篤動物研究センター長から挨拶があり、慰霊祭が終了しました。

式終了後、参列者は慰霊柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。



祖父江学長慰霊のことば



薬学部4年石崎さん 慰霊のことば



# 病棟ラウンジに 「山並み眺望パネル」が設置されました

9月17日(木)、附属病院の病棟ラウンジに山並み眺望 パネルが設置されました。このパネルは6階以上の病棟ラ ウンジの窓台、計7箇所に設置され、パネルを見ながら岩 手の雄大な山並みを眺望することができます。本学附属病 院入院案内パンフレットにも掲載され、幅広く周知されて います。

# ■設置場所

# 《東側》

- · 6階一般入院病棟
- · 7階小児病棟
- ·8階一般入院病棟
- · 9階一般入院病棟
- ・10 階緩和ケア病棟

# 《西側》

- ·8階一般入院病棟
- · 9階一般入院病棟



東10階緩和ケア病棟ラウンジ



西8階一般入院病棟ラウンジ

# ■東側眺望サイン



# ■西側眺望サイン



# 編集委員コーナー もっとジョギングに行こう 旧奥州街道(奥中山高原)編



編集委員 成田 欣弥

今回ご紹介するコースは旧奥州街道の一部で、 IGR いわて銀河鉄道の奥中山高原駅から小繋駅ま での高原の道、約10キロのコースです。高原の 雰囲気が楽しくて、すぐに走り切ってしまう感じ だったので、実はもっと距離が短いと感じていた のですが、測ってみるとちょうど 10 キロほどあ りました。

現在の国道4号線は谷筋を通っていますが、こ のあたりの旧奥州街道は高原の尾根上を通ってい ます。そこに取りつく道はいくつかあるのですが、 奥中山高原駅から4号線を少しだけ北上して、最 初の信号を右に曲がれば、あとは道なりに走れば 旧奥州街道を経て小繋駅に着きます。とにかく道 なりで大丈夫です。

高原に出るまでは結構な上り坂ですが、高原に 出てしまえば一気に視界が開け、平坦で爽やかな 道が続きます。歩道がない道なのですが、10キロ 走る間に車と10回出会うか出会わないか。コー スの途中、2つの集落がありますが、人と出会う こともほとんどありません。とてものどかなコー スですが、道はきれいに整備されていてとても走 りやすいです。

道中には一里塚や伝馬所(荷物や馬の中継点) の跡地などがあります。一里塚は道の左右両側に 一対、土を盛って作ったそうですが、コース終盤 の塚平一里塚はおそらくその両方が残っています。 そんな景色に触れながら、静かな道に江戸時代の 旅人の気配を感じるような、そんな気分も楽しめ ます。

他にも、夏でも涼しい木陰があったり、急に眺 望が開けたり、様々な高原の景色を楽しんで、最 後はつづら折れの道を一気に下ればゴールの小繋 駅です。

小繋駅前には産直のお店があり、地元の珍しい 産物を売っていたり休憩できたりします。帰りの 電車の時間まで楽しむのもいいかもしれません。 先月訪れたときには、アケビに似た果実が売られ ていたのですが、お店の方にアケビとは違うと力 説されました。名前を忘れてしまったのですが、 あれは何だったのでしょう?





# 強盗未遂事件捜査に協力した中央手術部の大鹿糠看護師に 感謝状が贈呈されました

9月30日(水)に盛岡市内で発生したコンビニ強盗未遂事件で、警察への通報や容疑者の使用車両の特徴を伝え、早期の犯人逮捕に貢献したことが認められました。

この日は、タレントのふじポンさんが盛岡東警察署の一日 警察署長を務め、ふじポンさんから感謝状を受け取った大鹿 糠看護師は「事件が起きたときは一瞬体が動きませんでした。 店員さんの助けを求める声と逃げていく犯人を見て、自分に できることは何かないかと考え、容疑者の車の特徴を覚えよ うと思いました。警察に通報しながら車で逃げていく犯人を 走って追いかけ、車種と色、ナンバープレートを伝えること ができました。犯人逮捕に繋がり大変嬉しく思います」と語 られました。

盛岡東警察署の吉田良夫署長は「仕事終わりにも関わらず 遅い時間まで捜査に協力いただき大変感謝しています。ぜひ 大鹿糠さんの功績を地域の方々に知ってもらいたい」と感謝 の意を表されました。

翌日、佐藤看護部長と共に理事長室を訪れ、小川理事長に感謝状を受領したことを報告されました。



左から:ふじポンさん、大鹿糠看護師、吉田署長



左から:小川理事長、大鹿糠看護師、佐藤看護部長

### 理事会報告 (9月定例-9月28日開催)

#### 1. 教員の人事について

医学部神経精神科学講座 准教授 八木 淳子(前 同講座講師) 医学部形成外科学講座 特任准教授 本多 孝之(前 同講座講師) (発令年月日 2020年10月1日付) 看護学部共通基盤看護学講座 教授 三浦 幸枝(現 同講座特任准教授) (発令年月日 2021年4月1日付) 統合基礎講座病理学講座機能病態学分野 教授 片岡 竜貴(前京都大学医学部附属病院病理診断科 准教授) (発令年月日 割愛の状況による)

2. 附属病院移転時取得機器の保守契約について



# スポット看護学講座

地域包括ケア講座 特任准教授 遠藤 太



# 実習施設との協力体制の取り組み

### 【地域包括ケア講座】

看護学部地域包括ケア講座には、地域看護学、老年看護学、精神看護学の各領域計11人が所属しています。地域包括ケアの時代を見越し学部創設に合わせて全国に先駆けた講座として誕生し、近接領域が力を合わせてこれからの時代の看護師、保健師、助産師養成に取り組んでいます。本稿では講座の取り組みの中で、精神看護学領域の実習施設である三田記念病院との協力体制についてご報告します。

#### 【指導者による授業協力】

臨地実習で学生の豊かな学びを実現するには、授業の時から実習指導者が学生の教育に関われる仕組みが必要です。精神看護学演習では、三田記念病院の実習指導者に学内の授業にも参加して頂き、臨地実習を想定したロールプレイを行っています。学生には、実習指導者が問題解決に向け一緒に考えてくれ、その人柄に触れることで安心して実習に臨めると好評です。また、実習指導者にとっても学生の学びの雰囲気やレディネスを知り、実習指導の準備性を高めてもらえます。

#### 【教員参加による倫理カンファレンス】

三田記念病院には、日頃から本学教員が院内教育や研究指導、事例検討会へと時間の許す限り通い、教育と臨床現場との連携を図っています。

また私は、週に1度、精神看護専門看護師としてケア・教育・研究で協力、連携する活動を三田記念病院で始めています。今回は、同院の看護部が本年度の目標に掲げている「患者の権利の尊重」を実現するため、病棟での倫理カンファレンスを企画し、同じ領域の本学教員と共にファシリテーターとして参加しました。

倫理カンファレンスとは、スタッフが日常的に起きる倫理的な事柄を、お互いの価値観を大切にしながらもざっくばらんに、少しでも「より良い方向へ」進めるために話し合う場です。そこでは、新人もベテランもなく、全て

の意見が大切に扱われる安全な場です。今回のカンファレンスでは、当初「日頃の行いが否定されるのでは」と構えていたスタッフもいるようでしたが、話し合いをすすめるうちに「できなかったこと」より、むしろ「できていたこと」が浮かび上がり、それを認め合うことで、自信を深める良いカンファレンスになりました。今後も倫理カンファレンスは継続して実施していき、お互いの倫理的感受性を高めあうとともに、さらなる協力体制を深めていこうと考えています。



三田記念病院指導者と地域包括ケア講座教員による倫理カンファレンスの様子

#### 《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 佐藤真結美 雄太 影山 工藤 靜子 松政 正俊 工藤 正樹 齋野 朝幸 及川 弘美 康之 藤本 淳一 安保 佐々木忠司 白石 博久 成田 欣弥 畠山 正充 遊田由希子 藤村 尚子 佐藤 仁 武藤千恵子 小坂 未来 髙橋 藤澤 美穂

# 編集後記

紅葉も終わりを告げ、岩手山が雪化粧し日ごとに 寒さが増す季節となりました。いつもなら、皆で鍋 でも囲みたい気持ちではありますが、まだまだ許さ れない状況です。

今回の特集では、「いわてチルドレンズへルスケアとこれからの小児医療」の紹介です。私自身、NICUにおいて新生児集中ケアの看護を通して、様々なことを学ばせて頂いた経験があり、小児医療には特に思いがあります。これからの小児医療の中で、医療を必要としている子どもたちが、地域で安心して暮らすための仕組みづくりの必要性を実感しました。是非お読みいただきたいと思います。

(編集委員 工藤 靜子)

# 岩手医科大学報 第530号

発行年月日 令和2年11月30日 発 行 学校法人岩手医科大学 編集委員長 小川 彰

編 集 岩手医科大学報編集委員会 事務局 法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453) FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷河北印刷株式会社 盛岡市本町通2-8-7 TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp